

# QR Newsletter



## 第四紀通信

Vol. 21 No.1, 2014



静岡県下田市吉佐美の海食洞。石橋ほか（1979）は、この海食洞の隆起貝層の<sup>14</sup>C年代測定を行い、標高 1.1 m と 2.3 ~ 2.7 m の固着動物遺骸から約 700 年前、2730 ~ 2910 年前の年代を得た。この地域の地殻変動をより詳しく解明するため、海食洞の隆起貝層の再調査を行った。（撮影と解説：北村晃寿）

---

---

Vol. 21 No. 1

February 1, 2014

---

2014 年大会案内（第 1 報）・・・ 2	国際会議のお知らせ・・・ 4
2013 年学会賞受賞者講演会・・・ 2	シンポジウム報告・・・ 5
日本地球惑星科学連合 2014 年大会 ・・・ 2	INQUA ECR meeting 参加報告・・・ 6
INQUA 名古屋大会セッション公募 ・・・ 3	2013 年度第 3 回幹事会議事録・・・ 7
	会員消息・・・ 8

---

---

### ◆日本第四紀学会 2014 年大会案内 (第 1 報)

日本第四紀学会 2014 年大会は、下記の日程で開催予定です。  
詳細や発表の申込方法などにつきましては、次号の第四紀通信に掲載いたします。

開催期間：2014 年 9 月 6 日 (土) ～ 9 月 9 日 (火)

開催場所：東京大学柏キャンパス

日 程：

- 9 月 6 日 (土) シンポジウム・一般研究発表 (口頭およびポスター)
- 9 月 7 日 (日) シンポジウム・一般研究発表 (口頭およびポスター)・総会・懇親会
- 9 月 8 日 (月) シンポジウム・一般研究発表 (口頭およびポスター)  
(シンポジウムは 2015 年 INQUA 大会で開催される予定のセッションを中心にテーマを検討中)
- 9 月 9 日 (火) 巡検  
(「東大柏・産総研つくばの第四紀年代測定施設を中心とした見学ツアー」(会員向け)等)を検討中)

### ◆日本第四紀学会 2013 年 学会賞受賞者講演会のお知らせ

期日：2014 年 2 月 2 日 (日) 13:00 ～ 14:50 (参加費無料、申し込み不要)

会場：日本大学文理学部 3 号館 3025 教室

(会場詳細は [http://www.chs.nihon-u.ac.jp/about\\_chs/campus\\_map/](http://www.chs.nihon-u.ac.jp/about_chs/campus_map/) をご参照ください)

13:00 ～受付開始

13:00 ～ 13:05 開会挨拶

13:05 ～ 13:50 受賞講演：岩田修二 会員

「転向点にたつ氷河地形研究」

(受賞件名：山岳氷河地形と堆積物および山と人間活動に関する一連の研究)

14:00 ～ 14:45 受賞講演：陶野郁雄 会員

「砂と粘土の四方山話 ー理学、工学、それとも理工学ー」

(受賞件名：自然災害に対する第四紀学の応用的研究への一連の貢献)

14:50 閉会

なお、講演会終了後に評議員会と幹事会の開催を予定しています。

### ◆日本地球惑星科学連合 2014 年大会のお知らせ

2014 年 4 月 28 日 (月) ～ 5 月 2 日 (金) にパシフィコ横浜で開催される日本地球惑星科学連合 2014 年大会の発表申し込みが 1 月 8 日に始まりました。

詳細は <http://www.jpгу.org/meeting/> をご覧ください。

主な日程です。

1 月 8 日 (水) 投稿・参加登録開始

2 月 3 日 (月) 投稿早期締切 (～ 24:00)

2 月 12 日 (水) 投稿最終締切 (～ 12:00)

3 月 5 日 (水) セッションプログラム (コマ割り) web 公開

3 月 18 日 (火) 発表プログラム web 公開

4 月 16 日 (水) 事前参加登録締切 (～ 17:00)

4 月 18 日 (金) 予稿 web 公開

第四紀学会では

- ・H-QR23 ヒトー環境系の時系列ダイナミクス を単独開催します。また、
- ・S-SS34 活断層と古地震 を共同主催します。

さらに

- ・A-HW28 流域の水及び物質の輸送と循環ー源流域から沿岸域までー
- ・H-QR24 平野地域の第四紀層序と地質構造
- ・H-SC25 人間環境と災害リスク

- H-SC26 ダム堆積物問題（堆砂と排砂）に対する地球科学的アプローチ
- M-IS23 津波堆積物
- M-IS35 ジオパーク を共催いたします。  
申し込みの際に、「口頭講演もしくはポスター講演」または「ポスター講演」のいずれかを選択いただきます。  
ポスター講演のみを希望される場合以外は、「口頭講演もしくはポスター講演」を選択してください。  
会員の皆様の積極的な参加を期待しております。

#### 【投稿料・参加登録料】

早期投稿：2014年1月8日（水）～2月3日（月） 24:00  
 投稿料 ¥3,000/1件（図の掲載 ¥500/1件）  
 通常投稿：2014年2月4日（火）～2月12日（水） 12:00（正午）  
 投稿料 ¥4,000/1件（図の掲載 ¥500/1件）

#### 事前参加登録料（2014年1月8日～4月16日）

<会員>

一般全日程：¥16,000      一般一日券：¥10,000  
 小中高教員全日程：¥8,000      小中高教員一日券：¥5,000  
 大学院生全日程：¥8,000      大学院生一日券：¥5,000

<非会員>

一般全日程：¥24,000      一般一日券：¥20,000  
 小中高教員全日程：¥15,000      小中高教員一日券：¥12,000  
 大学院生全日程：¥15,000      大学院生一日券：¥12,000

#### 当日参加登録料（2014年4月27日～5月2日）

<会員>

一般全日程：¥22,000      一般一日券：¥15,000  
 小中高教員全日程：¥12,000      小中高教員一日券：¥8,000  
 大学院生全日程：¥12,000      大学院生一日券：¥8,000

<非会員>

一般全日程：¥27,000      一般一日券：¥22,000  
 小中高教員全日程：¥17,000      小中高教員一日券：¥15,000  
 大学院生全日程：¥17,000      大学院生一日券：¥15,000

### ◆ INQUA 名古屋大会におけるセッション公募について

INQUA 名古屋大会のセッションの公募が始まりました。公募の最終締め切りは2014年3月末で、末尾の様式に記載された必要事項を下記のメールアドレスまでお送りください。INQUAのセッションは、INQUAが行っている5つの委員会に対応されることが義務づけられています。各委員会の概要を以下に示します。提案するセッションが、どの委員会の活動と関連しているかの判断が難しい場合や、日本開催に関連しての地域性や特殊性に関連するセッションを申請希望の場合は、事務局までご相談下さい。

公募案内のウェブサイト：<http://inqua2015.jp>

セッションの送付先：[session-proposal\(at\)inqua2015.jp](mailto:session-proposal(at)inqua2015.jp)

INQUAの委員会に関する情報：<http://www.inqua.org/commissions.html>

本件に関する問い合わせ先：小野 昭 ([ono\(at\)tmu.ac.jp](mailto:ono(at)tmu.ac.jp))、横山祐典 ([yokoyama\(at\)aori.u-tokyo.ac.jp](mailto:yokoyama(at)aori.u-tokyo.ac.jp))、名古屋大会事務局 ([2015inqua-sec-ml\(at\)aist.go.jp](mailto:2015inqua-sec-ml(at)aist.go.jp))

#### INQUAの5つの委員会

##### 1. CMP (Coastal and Marine Processes) : 海洋および沿岸プロセス委員会

CMPでは海洋および沿岸に関する研究全般について取り扱っています。現在5つの作業部会があり、海岸線近傍の第四紀環境変遷や大陸棚、そして外洋の環境変遷についての研究を行っています。日々進展する年代測定についての知見も重要なテーマのひとつであり、作業部会のひとつではそのテーマについても取り扱っています。

##### 2. PALCOMM (Palaeoclimate) : 古気候研究委員会

PALCOMMでは、プロキシと呼ばれる過去の表層環境シグナル（花粉やプランクトン、それらの化学データ等からもたらされる気温や降水量情報など）を使って気候モデルとの比較検討を行い、気候システムの理解を深めるための研究を進める委員会です。

##### 3. HaBCom (Commission for Humans and the Biosphere) : 人類および生物圏研究委員会

HaBComは、人類と環境の相互関係の探究とともに、気候や環境の変動が生物、人類に対してどのよ

うな影響を与えるかの解明を目指しています。地域的にも多様なプロジェクトが立ち上がっています。広く古生態学、考古学、人類進化のテーマもカバーし、時代も旧石器時代から歴史時代までフォローしています。

**4. SACCOM (Stratigraphy and Geochronology Commission) : 第四紀層序・地質年代委員会**

SACCOM では、層序学・編年学を通じて第四紀研究に寄与するため、各大陸の層序調査と区分、テフラ年代学、レス古土壌、乾燥地年代評価などの6つの作業部会を中心に定期的会合・出版・広報活動を行っています。

**5. TERPRO (Commission on Terrestrial Processes, Deposits and History) : 陸域のプロセス・堆積物・地史研究委員会**

TERPRO では、第四紀の陸域における環境とその変化に関するあらゆる分野を研究対象としています。現在、陸水、古土壌、活構造、災害、地下水に関する研究グループが活動していますが、雪氷・周氷河、沙漠、都市地質などに関する研究が、この委員会の活動に含まれます。

**Session Proposals for the XIX INQUA Congress in Nagoya, Japan in 2015**

The call for session proposals has opened under the following schedule and procedure. The scientific program committee of the XIX INQUA Congress will inform applicants submitting session(s) about the final list of all sessions approved in May to June 2014.

Deadlines for Session proposals, Abstract submission and Financial support:

- Session proposals: 31 March 2014

Please send below information shown in the template to the following e-mail address.

<session-proposal(at)inqua2015.jp>. Please note that all session proposals should indicate relevant commission(s).

- Abstract submission for ORAL and POSTER presentations: 20 December 2014

- Application for INQUA and LOC financial support to attend the Congress: 20 December 2014

Up-to-date information appears at <http://inqua2015.jp>

TEMPLATE

1 Session Title:

2 Session Running Title (10 words or less)

3 Lead convener: name, affiliation and e-mail

4 Co-conveners: name(s), affiliation and e-mail

5 Relevant INQUA Commission (CMP, PALCOMM, HaBCOM, SACCOM, TERPRO)

• Principal Commission:

(Optional) Secondary Commission:

6 Description of the proposed Session (300 words or less)

**◆ "Paleoseismology, Active Tectonics and Archaeoseismology"  
5th International Meeting (2014.9.21-9.27, 韓国)のご案内**

INQUA の TERPRO に属するプロジェクトの1つである "Paleoseismology, Active Tectonics and Archaeoseismology" では 5th International Meeting を 2014 年 9 月 21 日 (日) から 9 月 27 日 (土) にかけて韓国の釜山で開催します。

古地震学、活構造および地震考古学に関する研究成果を発表する良い機会ですので、ぜひ参加をご検討下さい。なお、本会合に関するホームページがまもなく開設される予定ですが、それまでの間お問合せ等につきましては、古地震・ネオテクトニクス研究委員会の吾妻 (takashi\_azuma(at)me.com) もしくは会合準備を担当している Pukyong National Univ. の Young-Seog Kim 氏 (ysk7909(at)pknu.ac.kr) 宛にメールでご連絡下さい。ご希望される方には 1st サーキュラーの PDF をメール添付でお送りします。

**【会合スケジュール (予定)】**

9 月 21 日 (日) 参加者現地到着

9 月 22 日 (月) プレ巡検 (東海岸の段丘地形など)

9 月 23 日 (火) セッション

9 月 24 日 (水) セッション

9 月 25 日 (木) ポスト巡検 (韓国南東部の活断層)

9 月 26 日 (金) ポスト巡検 (慶州市の地震考古学)

9 月 27 日 (土) 解散

## 【セッションテーマ】

- Earthquake Geology
- Paleoseismology
- Archeoseismology
- Secondary Effect of Earthquakes
- Remote Sensing & Geomorphology
- Seismic Hazard Assessment for Critical Facilities
- Asian Active Tectonics

◆日本第四紀学会テフラ火山研究委員会・首都大学東京「学術成果の都民への発信拠点・組織の形成」研究グループ共同開催シンポジウム  
「関東地方の地形・地質・テフラ研究の現状と今後の方向性」

村田昌則（首都大学東京 大学教育センター）

シンポジウム「関東地方の地形・地質・テフラ研究の現状と今後の方向性」は、日本第四紀学会テフラ火山研究委員会と首都大学東京「学術成果の都民への発信拠点・組織の形成」研究グループの共同主催として2013年11月9日（土）に首都大学東京南大沢キャンパス91年館において開催された。本シンポジウムは、近年首都圏の都市空間の利活用や防災の重要性を背景として、大きく研究の進んだ関東地方の地形・地質・テフラ研究の現状を紹介し、今後の方向性について議論することを目的としたものである。

首都大学東京91年館では、「東京の大地を探る－関東平野300万年の歴史－」と題し、東京の地形と地質を紹介する企画展を2013年10月26日～11月10日の会期で開催しており、本シンポジウムはその関連行事でもある。会場となった91年館多目的ホールは、一般の参加者も含めて、60名をこえる参加者があり、会場がほぼ埋まるほど盛況であった。

シンポジウムは、先ず植木岳雪氏（千葉科学大学）の趣旨説明に続き、町田 洋氏（東京都立大学名誉教授）による基調講演が行われた。町田 洋氏は、INQUA COT (Commission on tephra) -Jの活動記録と今後の展望、さらに南関東のテフラ研究から示唆された層序・編年や火山活動史における諸問題について講演された。続いて近藤玲介氏（明治大学）は、関東平野周辺の河成段丘におけるルミネッセンス年代測定法の適用とその有効



町田 洋氏による基調講演の様子

性について示された。中里裕臣氏（農村工学研究所）の講演では、関東平野南部における中期更新世のテフラ層序について検討し、対比を示された。植木岳雪氏は、関東平野西縁丘陵の鮮新一下部更新統について、古地磁気極性による層序と編年について議論し、テフラ対比のみならず古地磁気層序および生層序との組合せによる対比・編年の検討の重要性を示された。鈴木毅彦氏（首都大学東京）の講演では、東京地下で発見されたテフラの広域対比と層序関係から多摩丘陵および武蔵野台地周辺の地質構造について言及された。水野清秀氏（産総研）は、関東平野北西部のボーリングコア試料の対比などから、約35万年前と約100万年前の標高分布モデルを示し、構造運動に関する考察を行った。この他に石山達也氏（東京大学）の講演が予定されていたが、体調不良により中止されたのが残念であった。以上のように、本シンポジウムでは、関東平野およびその周辺のテフラを中心とする地形・地質学的研究の着実な知見の積み重ねと進歩の様子を知ることができた。

最後に行われた総合討論では、テフラ研究の重要性からか、現状への厳しい意見や活発な議論が交わされた。今後のテフラ研究の方向性として、テフラ同定や分布域の欠落部分を埋めるために海域や北海道など本州以外でのテフラ対比の必要性が提示された。さらに、テフラ対比の基盤となるデータベースの構築について、テフラバンクなど集約の必要性が議論され、鈴木毅彦氏からは、現在首都大で保管されている町田 洋氏が採取したテフラ試料のデータベース化についての取り組みが報告された。テフラのデータベース化に関しては今後も研究委員会でシンポジウムを開催するなど積極的に推進することが話し合われた。

研究委員会の活動に関連して、鈴木毅彦氏から2014年末に南米で開催が模索されていたINTAVの野外集会が延期されたことが報告された。また、INQUAの名古屋大会に向けて、テフラ・火山研究委員会として、セッション提案の期待が示された。

ほかにテフラ研究者特に若手の研究者への期待と、研究者だけでなく一般市民へのテフラ研究の普及啓蒙活動の推進が求められた。

最後になりましたが、ご講演いただいた各発表者の方々に深く感謝いたします。

## ◆ INQUA Early Career Researcher inter-congress meeting に参加して

東京大学大学院 新領域創成科学研究科 佐藤明夫

2013年12月2日から6日までの5日間、オーストラリア・サウスウェールズ州 Wollongong の University of Wollongong で国際第四紀学会 (INQUA) の主催による INQUA Early Career Researcher inter-congress meeting (INQUA ECR) が開催されました。この研究集会はポストドクターや大学院生などの若手研究者を対象として、2015年の INQUA 名古屋大会に向けての第四紀研究における各種分析方法の理解、発表スキルの向上および研究交流をセミナーやワークショップにより発展させる目的で開催されました。

Sydney から列車を利用して約1時間半の移動で到着すると、Wollongong は太平洋を臨む美しいビーチと落ち着いた雰囲気のある港が印象的でした。会場となった University of Wollongong には Department of Sciences の中に School of Earth and Environmental Sciences が設立されており、こちらのスタッフや大学院生が本大会のホストを努めておられました。この学科には Quaternary Science Reviews の Editor in Chief である Colin Murray-Wallace 教授や元 INQUA 会長の Allan Chivas 教授らをはじめとするスペシャリストによって第四紀学や環境変動学に特化した研究教育体制が展開されています。初日に行われたラボツアーではこれらの研究室で運用されている測定機器や実験室の様子などを案内して頂きました。特に年代測定に関するラボは充実しており、アミノ酸のラセミ化反応年代測定や光ルミネッセンス年代測定のラボなどが常に稼働している様子でした。ほかにも自走式のボーリングマシンや複数台の四輪駆動車など、野外調査の車輛やハードウェアも充実していました。初日と2日目は近年の第四紀研究におけるトピック、主要な年代測定法や古環境指標の分析方法などについて各分野のスペシャリストからの講義を受けました。発表後はもちろん発表中でも質問やコメントとその返答が活発に交わされ、とても打ち解けた雰囲気の中で行われました。各コマ間の tea break では軽食も用意されており、お互いにどこからきたのか？どんな研

究をしているのか？など、皆リラックスした雰囲気の中で会話しながら交流を深めました。参加者は全体では80人程で、そのうちオーストラリア国内から約半分を占め、残りは欧州、アジアそして南米などからでした。日本からは私を含めて2名でした。数人の参加者から話を聞いてみると、現在の所属がオーストラリア国内の大学であっても、アジアや欧州から留学中という方も多い印象でした。ちょうど中間となる3日目には field trip が開催され、Wollongong 周辺の海岸地域を中心に砂浜海岸や Illawarra 湖など様々なポイントを巡りました。この地域の海岸地形発達とその堆積物について丁寧に解説して頂き、最終間氷期に形成されたかつてのバリアーラグーンシステムの堆積物と完新世に形成された現在のバリアーラグーンシステムの地形とを対比して観察することができました。海水準変動と海岸地形発達そしてそれらの古環境指標や堆積物の年代測定など、海岸・沿岸域の地形発達と堆積物に関わる要素の凝縮した教科書のようなフィールドであると感じました。後半の4日目と最終日には各参加者の研究発表が口頭とポスターセッションで実施されました。研究分野は多岐にわたり、海岸地形発達や沿岸域の古環境変動、津波堆積物、OSL 年代測定そして降水量や古植生の復元シミュレーションなど、現在進行中の研究が紹介されました。私も自身の研究課題である中央アジアの古環境変動に関する口頭発表を行い、コメントを頂く貴重な機会となりました。

本大会は、オーストラリア国内又は国外からの参加に拘らず抽選制の旅費補助制度が設けられ、若手研究者には大変心強いものでした。それらが欧州や南米など遠方からの参加者を呼び込めた要素になったのではないのでしょうか。そしてなによりオーストラリアのスタッフ・関係者らの丁寧な運営と案内による研究集会本体や食事会・交流イベントは各国からの参加者にとっても好評でした。全体的を通じてカジュアルな雰囲気の中で実施されたことは若手研究集会として相応しく、若手同士の国際交流にかなり有益であったと思います。



Colin Murray-Wallace 教授による writing for publication の special lecture



ビーチサイドパークでのバーベキューの様子

## ◆日本第四紀学会 2013 年度第 3 回幹事会議事録

日時：2013 年 12 月 1 日（日）14:00～16:50

場所：明治大学駿河台キャンパス

Global Front 7 階 C4 室

出席者：小野会長、奥村、齋藤文紀、吾妻、卜部、北村、佐藤、齋藤めぐみ、藤原、水野、小森、岡崎、宮内

事務局：中野

欠席者：出穂、米田

## 報告事項

## メール報告

## 庶務・佐藤

1. 林 義勝氏（明治大学文学部長）から嶋田 繁（2000）伊豆半島、カワゴ平火山の噴火と縄文時代後～晩期の古環境、第四紀研究、9-2 の図 2 の転載許可願（転載先：『明治大学文化財研究施設の黒曜石研究』（仮題）、明治大学文学部）があり（131015）、これを許可した（131025）。

2. 志知幸治氏（森林総合研究所）から五十嵐八重子（2010）北海道とサハリンにおける植生と気候の変遷史—花粉から植物の興亡と移動の歴史を探る—、第四紀研究、49、241-253 の図 3（属種名と層相を和名に変え、花粉帯を削除）の転載許可願（転載先：『教養としての森林学』第 5 講、日本森林学会監修）があり（131029）、これを許可した（131030）。

3. 地質工学会関東支部から『関東の地盤（2013 年度版）（仮称）』の転載許可と二次的利用（書籍電子化して付録 DVD に収める）があり（131114）、これを許可した（131121）。

## 庶務・北村

1. 社会地質学会から第 23 回環境地質学シンポジウムの共催依頼があり（131102）、これを許可した（131111）。

## 企画・出穂

1. 平成 26 年度科学研究費助成事業（研究成果公開促進費）「研究成果公开发表（B）」計画調書を提出した（131111）。

## 広報・齋藤めぐみ

1. 第四紀通信 vol. 20, no. 6（12 月号）は予定どおり発行される見込み。

## 会計・岡崎

1. テフラ火山研究委員会のシンポジウムに関わるアルバイト代 18,000 円を了承した。

## 渉外・吾妻

1. テフラ火山研究委員会の会場でのデジタルブックの交換・販売ならびに今年の大会予稿集の販売実績は、以下の通りである。

デジタルブック 交換 10 部、販売 14 部  
単価 2,000 円 28,000 円  
予稿集 販売 11 冊 単価 500 円 5,500 円

## 当日報告

## 編集幹事：卜部・藤原

1. 第 2 回編集委員会を 11 月 16 日に開催し、論説 2 編、総説 1 編（学術賞受賞記念）、短報 1 編を受理し、53 巻 1 号（2 月号）に掲載予定。53 巻 2 号は受理候補論文はあるが、依然として厳しい状態。

## 2. 弘前大会特集号について

編集委員会の構成（予定）：檜垣大助（弘前大学）、北村 繁（弘前学院大学）・亀井 翼（弘前大学）・小岩直人（弘前大学）。編集幹事 2 名がこれに加わる。特集号は 7 編で構成する予定で、11 月 19 日時点で 2 編が投稿されている。

## 3. 編集委員の分担変更について

田村委員の担当を現状の J-Stage から、他の委員と同じく論文担当をする委員とする（地質系の論文が多いので、主にその担当をお願いする）。これに伴い、J-Stage は卜部幹事が担当することとした。

## 庶務・佐藤

1. 名誉会員選考、学会賞・学術賞選考、論文賞・奨励賞選考の実施について確認した。

## 渉外・宮内

2014 年度日本地球惑星科学連合大会におけるセッション提案について、主催・共催分はすべて採択された。

## 事務局・中野

## ◆会員消息 2013 年 9～10 月分

## &lt;新入会&gt;

徳安 佳代子（日本原子力研究開発機構地層処分研究開発部門 東濃地科学ユニット 自然事象研究グループ）

橋詰 潤（明治大学黒曜石研究センター）

## &lt;所属・住所異動&gt;

伊藤 拓馬（公益財団法人 地球環境産業技術研究機構 CO<sub>2</sub> 貯留研究グループ）

伊藤 谷生（帝京平成大学現代ライフ学部）

熊原 康博（広島大学大学院 教育学研究科社会認識教育学講座）

## &lt;退会&gt;

吉羽 興一

## ◆パンフレット等学会への連絡物

①第 18 回「震災対策技術展」横浜 後援名義使用許可依頼（同実行委員会）

②科学技術論文誌・会議録データベースに係る学協会アンケート依頼（国立国会図書館）

## 企画・小森

・受賞者講演シンポジウムを 2 月上旬に東京周辺で開催する予定である。

・2014 年大会の計画について紹介された。

・予稿集の体裁について、次回幹事会で検討することとした。

その他

1. ホームページの名誉会員の記述を更新することとした。

審議事項

- 1) 選挙制度検討委員会について検討し、以下の事項の検討を依頼することとした。  
選挙制度に関するアンケートの実施、分野別会員数と評議員定数の検討、現行選挙制度の検討、投票率を上げるための方策、会長・副会長の選出方法、推薦または立候補制の可否。
- 2) 会員サービス向上検討委員会について検討し、以下の事項の検討を依頼することとした。  
会員サービス向上に関するアンケートの実施、

会員を増やすための方策、大会・会誌充実のための方策。

- 3) 2014年功労賞について検討し、次回の幹事会で引き続き検討することとした。
- 4) 第四紀通信 vol.21,no.1 (2月号)の締切日を1月10日とし、掲載内容と原稿執筆担当者を確認した。
- 5) 研究委員会の活動を学会HPへ掲載することとした。
- 6) 第18回「震災対策技術展」横浜 後援名義使用許可を審議し、これを了承した。

第四回幹事会の開催日時・会場は12月中に決定することとした。

★★★ 第四紀通信に情報をお寄せ下さい ★★★

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。

広報幹事：齋藤めぐみ (memekato(at)kahaku.go.jp) 宛にメールでお送り下さい。

第四紀通信は奇数月月上旬原稿締め切り、偶数月1日刊行予定としていますが、情報の速報性ということから、版下が完成した段階でホームページに掲載するよう努力しています。奇数月15日頃にはホームページにアップするようになっていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会 国立科学博物館 地学研究部 齋藤めぐみ  
〒305-0005 茨城県つくば市天久保4-1-1 FAX:029-853-8998

広報委員：那須浩郎・糸田千鶴 編集書記：岩本容子

日本第四紀学会ホームページ <http://quaternary.jp/> から第四紀通信バックナンバーのPDFファイルをご覧できます。

日本第四紀学会事務局

〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 新宿ラムダックスビル10階  
株式会社春恒社 学会事業部内

E-mail: daiyonki(at)shunkosha.com 電話:03-5291-6231 FAX:03-5291-2176